

Revision of the genus *Zeugophora* (Coleoptera, Megalopodidae, Zeugophorinae) in Japan

(日本産モモブトハムシ属 (鞘翅目・カタビロハムシ科)の分類学的再検討)

環境資源学専攻 生物生態・体系学講座 昆虫体系学 竹本 拓矢

1. はじめに

Zeugophora (モモブトハムシ属) は Chrysomeloidea (ハムシ上科), Megalopodidae (カタビロハムシ科), Zeugophorinae (モモブトハムシ亜科) に分類されるグループである。92種からなる比較的大きな属で、現在日本には、*Zeugophora annulata* (Baly, 1873), *Z. bicolor* (Kraatz, 1879), *Z. unifasciata* (Jacoby, 1885), *Z. chujoi* Ohno, 1961, *Z. flavonotata* (Chûjô, 1935), *Z. gracilis unicolor* Chûjô, 1958, *Z. varipes* (Jacoby, 1885), *Z. japonica* Chûjô, 1951, and *Z. hozumii* Chûjô, 1953 の、9種が記録されている (Rodríguez-Mirón, 2018)。本属は、ハムシ上科の中でも生態的、分類学的研究が進んでおらず、特に生殖器を記載した研究は限られている (Reid, 1989, 1992; Chûjô, 1952; Suzuki, 2003; Sekerka & Vives, 2013; Geovanni et al., 2017)。

今後、分類体系の整理を進めるため、本属の10種の計測、オス・メス交尾器、前胸背形状を図示し、従来、雌雄差の見出されていなかった腹板形状を含む再記載をおこなった。

2. 方法

各博物館、研究施設に所蔵されている、もしくは個人コレクションの本属標本を借用し、標本調査をおこなった。解剖については、Ohara, 2006に従った。まず、昆虫の腹板を外し、10% KOH (60°C, 約15分) で筋肉を溶かしたあとに交尾器を取り外し、その後乳酸と酢酸フクシン (60°C, 約3時間) で染色、脱水をしていき、その後アセトサリシレート (60°C, 約15分) で脱水、更にキシレン (室温, 約2分) で脱水、そして、 α -テレピネオール内で観察、スケッチをおこなった。観察後はキシレンで脱水後、バルサムに封入し標本とともに針刺しをして保存した。

3. 結果と考察

今回、本属の標本を精査した結果、北海道から未記載種が見出され、また、日本と台湾に分布するとされていた、*Zeugophora flavonotata* Chûjô, 1935のうち台湾の個体群は別種であることが見出された。更に、*Z. nigricollis* Jacoby, 1885を、*Z. bicolor* Kraatz, 1879のシノニムから復活させた。

また、以前外部形態のみによって *Zeugophora* 属のシノニムとして消された *Pedrillia* 亜属、*Zeugophora* 亜属の交尾器や微細構造を検討した結果、これまで見出されていなかった形態的差異を発見した。

4. まとめ

日本産モモブトハムシ属 *Zeugophora* は10種であり、日本産種については、以前使われていた2亜属が明瞭に区別が可能である。しかし、亜属の復活については世界的なモモブトハムシ属の検討が必要となるため、今後、更なる研究が望まれる。